

今日のトピック トルコリラの最近の動向と今後の見通し

総選挙を控え不安定化、中銀の政策が下支え

ポイント1 リラが対米ドルで史上最安値

政治的不透明感などが背景

- トルコリラは、3月末から4月15日まで、米ドルに対し3.9%安となり、史上最安値を更新しました。対円でも同期間に4.6%安となっています。
- 米国の利上げ観測から米ドル高傾向となるなか、トルコでは6月に総選挙が予定されており、政治や経済・金融政策を巡る不透明感がリラ安要因となっています。

ポイント2 総選挙での与党退潮を懸念

市場が評価する副首相退任観測も影響

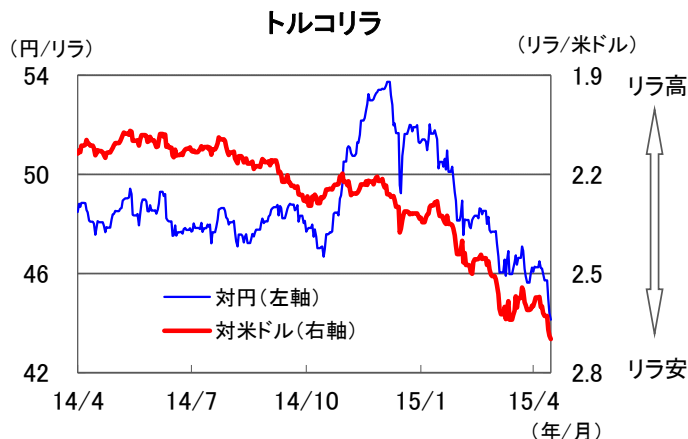
- 14日に公表された世論調査では、与党公正発展党(AKP)が議席数を前回2011年の総選挙時に獲得した327から261に大幅に減らす見込みが示されました。エルドアン大統領の権限強化に警戒感が広がっていることが一因との指摘が見られます。
- 同大統領はトルコ中央銀行(以下、中銀)に対し、物価高のなかでも景気に配慮した利下げを求めており、市場ではこうした姿勢について強い懸念があります。また、中銀への圧力を抑える働きをしてきたババジャン経済担当副首相について、4選を不可とする党の規則により再任が困難との観測も、リラ安要因になっています。

今後の展開

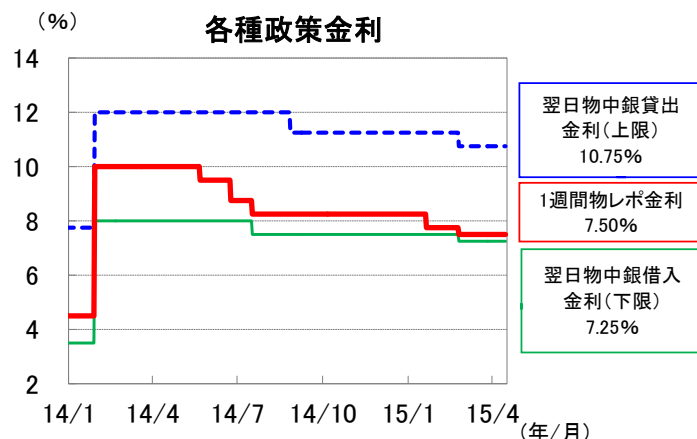
中銀の高金利維持と、経常収支改善はリラを下支え

- 中銀は1月と2月に利下げを行いました。3月17日の金融政策委員会では各種政策金利を据え置きました。市場では、バシュチュ総裁が同月中旬に大統領と会談した際に物価高抑制の重要性を説き、利下げへの圧力を退けることに成功したとの見方が広がっています。

- 中銀は、昨年1月に大幅な利上げを行い、その後の利下げは比較的小幅にとどめています。高めの政策金利は内需を抑え、輸入の減少などによる経常収支の赤字縮小にもつながっています。政治的不透明感は今後リラの不安定要因ですが、海外と比較して高い金利水準は、リラの下支え要因になると見込まれます。



(注)データは2014年4月1日～2015年4月15日。
(出所)Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注)データは2014年1月1日～2015年4月15日。
(出所)Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも チェック!

2015年04月14日 最近の指標から見る米国経済(2015年4月)
2015年03月18日 トルコ中銀、各種政策金利を据え置き

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。